

盛岡市遺跡の学び館 第14回企画展

# 縄文人の精神

— 盛岡の縄文時代中期の装飾 —



盛岡市 遺跡の学び館  
Study Museum of Archeological Site

盛岡市遺跡の学び館 第14回企画展

## 「縄文人の精神—盛岡の縄文時代中期の装飾—」図録

平成28年(2016)10月8日 発行

編集・発行 盛岡市遺跡の学び館  
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1  
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605  
URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/>

印刷 株式会社 白ゆり  
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ6丁目1-50  
TEL 019-643-6060 FAX 019-643-6065

盛岡市遺跡の学び館



## 開催にあたって

縄文時代のなかで土器は姿かたちを多様に変えながら製作されていました。なかでも縄文時代中期（約5000～4000年前）は、新潟県馬高遺跡の火炎土器や山梨県安道寺遺跡の水煙土器に代表されるように立体的で華麗な装飾の施された土器が出土しています。

盛岡市内でも、繫V遺跡の深鉢をはじめ大館町遺跡のキャリパー形深鉢など大胆かつ優美な渦巻文様が描かれた土器や、“顔”を思わせる土器が出土しており、縄文人の精神的な高揚をうかがうことができます。

今回の企画展では、盛岡市内から出土した縄文時代中期の土器を御覧いただき、装飾や文様に込められた縄文人の想いにせまっていきます。

最後になりましたが、企画展を開催するにあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

平成28年10月

盛岡市遺跡の学び館

## 開催要項

### ■ 盛岡市遺跡の学び館 第14回企画展

「縄文人の精神－盛岡の縄文時代中期の装飾－」

会期／平成28年(2016)10月8日(土)～平成29年(2017)1月15日(月)

会場／盛岡市遺跡の学び館 企画展示室

主催／盛岡市遺跡の学び館

後援／(順不同)岩手考古学会,岩手史学会,岩手日報社,朝日新聞盛岡総局,  
読売新聞盛岡支局,毎日新聞盛岡支局,時事通信社盛岡支局,共同通信社盛岡支局,  
河北新報社盛岡総局,産経新聞盛岡支局,デーリー東北新聞社,盛岡タイムス社,  
岩手日日新聞社,NHK盛岡放送局,IBC岩手放送,テレビ岩手,めんこいテレビ,  
岩手朝日テレビ,岩手ケーブルテレビジョン,エフエム岩手,ラヂオもりおか,  
アキュート,ぼらん,マ・シェリ,情報紙ゆうゆう

### ■ 特別講演会

演題／「縄文時代中期大木式土器の特徴と地域性」

講師／菅野 智則 氏(東北大学埋蔵文化財調査室特任准教授)

日時／平成28年(2016)11月20日(日)13時30分～15時30分(予定)

会場／遺跡の学び館研修室

## 目次

1. 装飾の高揚－縄文中期－	4
○縄文時代中期という時代	
○「大木式土器」について	
2. 渦巻文様の展開	6
○中期大木式土器の変遷	
3. 縄文美のツボ	10
○渦巻文様の不思議	
【コラム】岡本太郎と縄文土器	
○縄文土器の「顔」	
【コラム】南太平洋の土器	

## 図録執筆・編集

津嶋知弘, 樋下理沙

## 協力 (順不同敬称略)

岩手県教育委員会, (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

## 引用参考文献

- 石井 匠 2009 『縄文土器の文様構造－縄文人の神話的思考の解明に向けて－』未完成考古学叢書7  
アム・プロモーション
- 石井 匠 2012 「2章 縄文土器の造形デザイン－秘められた「四次元」の探求へ」『縄文土器を読む』  
アム・プロモーション
- 神原雄一郎 2004 「渦巻文様の展開－盛岡の縄文時代中期の土器」『縄文の彩華－中期の技と美－』解説  
盛岡市遺跡の学び館
- 仙台市史編さん委員会 1999 『仙台市史 通史編1 原始』仙台市
- 高橋龍三郎 2014 「民族誌を用いた土器型式の動態把握のための理論的研究」科学研究費助成事業研究成果報告書
- 松本 武彦 2016 『美の考古学 古代人は何に魅せられてきたか』新潮選書
- 盛岡市遺跡の学び館 2004 開館記念特別展『縄文の彩華－中期の技と美－』図録
- 盛岡市教育委員会 2013 『繫V遺跡－繫小学校校舎等増改築工事に伴う発掘調査報告書－』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2008 『柿ノ木平遺跡・堰根遺跡－浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書IV－』

○表紙写真 深鉢(大木8b式,大館町遺跡)

○2ページ背景写真 深鉢(大木8b式,繫遺跡,重要文化財)

○裏表紙イラスト 遺跡の学び館キャラクター「みっけ」縄文ver.

○3ページ背景写真 大型深鉢(大木8b式,大館町遺跡)



### 3. 縄文美のツボ

#### 渦巻文様の不思議

中期大木式土器の中で最も華美とされる大木8b式土器は、口縁から胴部にかけて舞い降りる複雑な渦巻文様が特徴です。三次元の立体である土器の全面に施される文様ですが、デジタル写真を合成した展開画像を用いることで、全体の構成がわかりやすくなります。

複雑な文様は、隆線または隆沈線の技法による小渦巻文、大渦巻文、トゲ状文、平行線などの組み合わせで構成さ

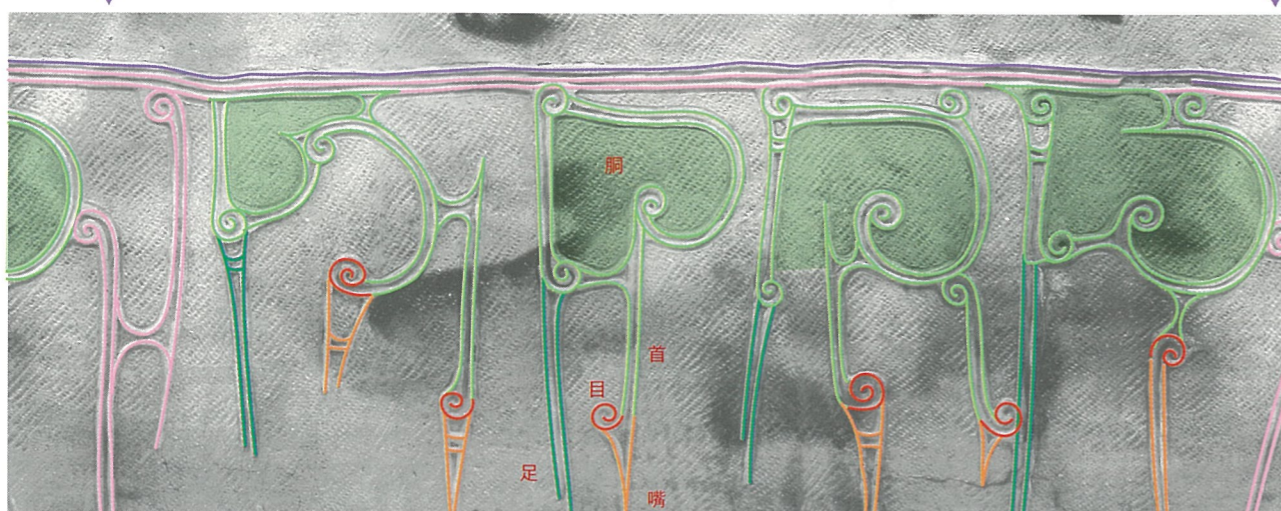
れていますが、同一のモチーフが単純に連続することはありません。縄文中期に発達したこのような文様は「物語性文様」などと呼ばれ（松本2016）、何らかの具体的な意味内容と結びついた表現と考えられています。

繫V遺跡や柿ノ木平遺跡出土土器の文様展開画像を観察すると、抽象化された動物や人間の動きとも読み取れる文様が見られます。



3 キャリバー形深鉢 盛岡市柿ノ木平遺跡

【文様模式図】



頭を動かす水鳥

水鳥

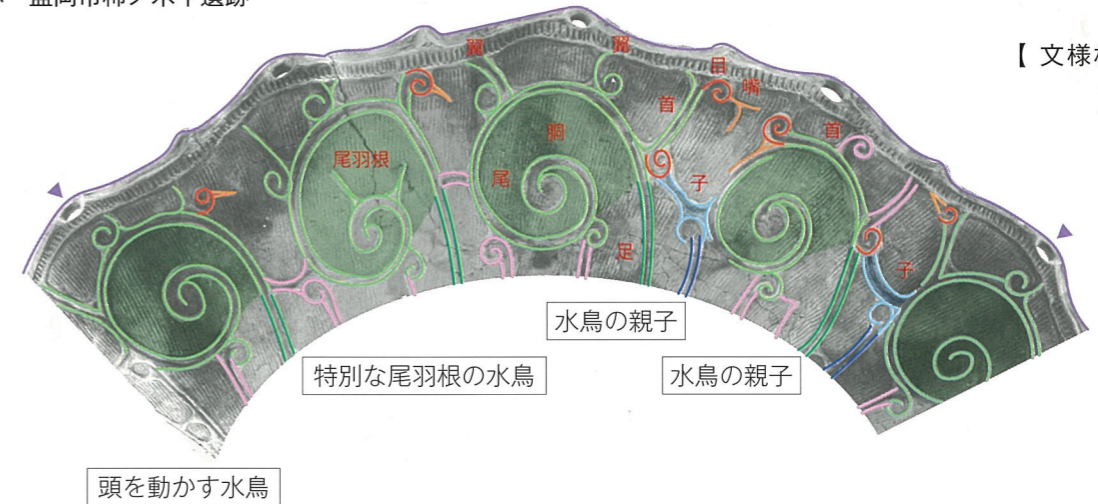
頭を動かす水鳥

水鳥



4 深鉢 盛岡市柿ノ木平遺跡

【文様模式図】



特別な尾羽根の水鳥

水鳥の親子

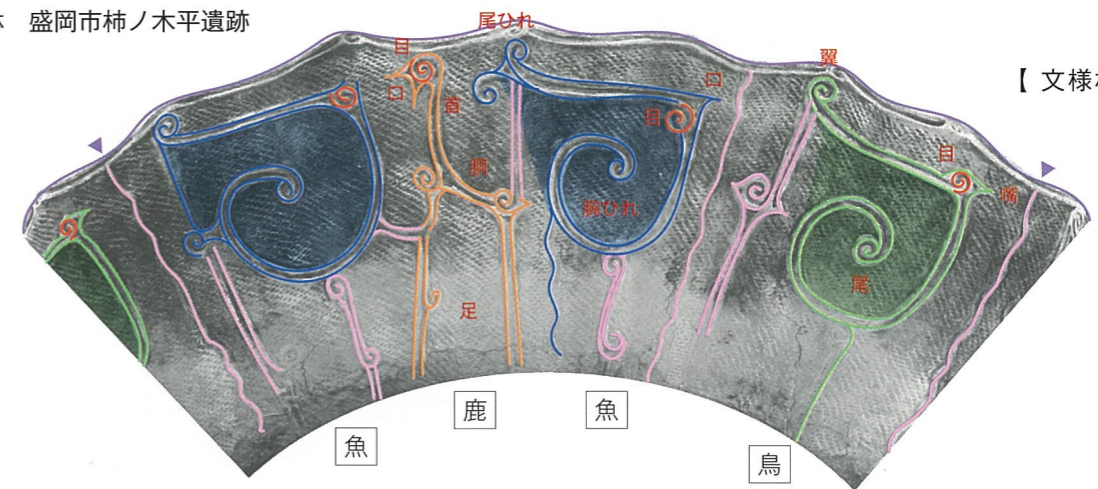
水鳥の親子

頭を動かす水鳥



5 深鉢 盛岡市柿ノ木平遺跡

【文様模式図】



魚

鹿

魚

鳥